

名著の推薦—取次をいたします

大谷大學出版部

一、名著・良書の紹介・推薦をいたします。

之れは讀書子相互の義務でもあります。而も汗牛充棟もたゞならざる多數の書籍より何を選ぶべきかに迷ひます。茲に本會は夫々の専門大家に依囑してその良書の選擇を試み御紹介に應じます。

二、名著・良書はお取次いたします。

發行所の如何を問はずこの本でも何冊何種でも假令一冊宛でもお取次致します。御注文の際は書名・著者名・定價・送料・發行所等を御明記の上當係へハガキ及び振替（又は切手代用）にて御申込下さい。

其他出来るだけの御便宜を計ります。

御不用の書籍の御相談や古本の御周旋もいたします。

製本——あらゆる雑誌や書籍の製本もいたします。

大谷派本願寺前法主臺下
 大谷派本願寺副管長
 京都帝國大學教授
 大谷大學圖書館主任

光 演 上 人
 大 谷 瑩 誠 殿
 松 本 文 三 郎 博 士
 西 本 龍 山 編
 題 簽 題 字
 序 文 辭
 著 文

曠古の律典
 希世の法寶
 出現

燉煌出土
 十誦比丘尼波羅提木叉戒本並解説

體裁

原寸大（戒本全長一丈九尺五寸、天地八寸一分、寫真半切十五枚半）卷子本。桐箱入。
 紙質・特製手漉島ノ子紙。紙色・原本同様審美書院式木版應用コロタイプ印刷。
 裝幀・細心ノ注意ト技術トヲ以テ美術的ニ作製ス。

一、戒本の特徴 この戒本は前法主臺下光演上人より大谷大學圖書館に贈與せられたるものを恩借して、
 學界の批判を仰ぐべく提示せるものでありて、その特徴として左の四項を擧げ得る所の貴重なる文献
 である。

- (1) 燉煌出土本なること。
- (2) 一千四百年以前の六朝古寫經たること。
- (3) 羅什譯出の比丘尼戒本と推定し得ること。
- (4) 藏外律典にして古來の經典史家又は大藏經編纂者の未だ曾て知らざる稀觀の靈帙であること。

松本博士推稱の辭(跋文の一節)

假令ひ此戒本が果して羅什の譯なりとするも、將た否ら
 ずとするも、今を去ること一千數百年以前の古鈔本とし
 て珍重すべきのみならず、古來未だ曾て世の學者の知ら
 ざる藏外の書として、斯道研究者に對して貴重なる資料
 たることを信じて疑はざるなり。

二、附錄 解說

(四六四倍版大、七十頁)
並附表九枚、紙函入

(1) 燉煌比丘尼戒本、羅什譯比丘尼戒本、法顯集出比丘尼戒本、佛陀耶舍譯四分比丘尼戒文、佛陀跋陀羅譯僧祇比丘尼戒文、佛陀什譯五分比丘尼戒文の六譯對照により、羅什譯出の比丘尼戒本たるを推定す。

(2) 律藏文學の核心たる戒文は甚だ多含にして難解である。今この燉煌比丘尼戒本の戒條を相當なる項目の下に分攝して解釋を施し、且つ、まゝ興味ある持犯の問題に觸れて、比丘尼教團内部生活の情況を髣髴せしむ。

(3) 二十種を超ゆる諸種戒本の戒條約六百條を大小九枚の表に於て試み、以て新たに出現せる燉煌比丘尼戒本との相互關係並に佛教戒律の一般を明かならしむ。

會 員 申 込 所

◎ 會 員 申 込 所

京都市烏丸頭大谷大學圖書館内 西 本 龍 山

◎ 特 價

會 員 申 込 者 に 限 り 特 價 拾 六 圓 (定 價 貳 拾 圓)

書 留 送 料 並 包 裝 費 八 拾 錢 (會 費 前 納 者 ハ 送 料 等 不 要)

◎ 期 日

會 員 申 込 期 日 十 一 月 二 十 日 限 (以 後 定 價 に 復 す)

◎ 配 本

十 二 月 廿 五 日 日 前 止

◎ 發 行 部 數

二 百 部 限 定 版

昭 和 三 年 十 月

發 行 者 京 都 市 烏 丸 頭 大 谷 大 學 圖 書 館 内 西 本 龍 山

取 次 所 東 京 藝 苑 社 文 榮 堂 文 華 堂

大 阪 藝 苑 社 文 堂 平 安 堂

大谷大學御指定教科書販賣所

書籍の全般

特に宗教・哲學・社會科學書

京都市烏丸今出川上ル

三菱書籍部

電話西陣貳參九貳番
振替大阪七八〇七八番